

## 論文番号 167

### 担当

札幌医科大学 医学部 薬理学講座

### 題名 (原題/訳)

Interaction of alcohol and an alpha1-blocker on ambulatory blood pressure in patients with essential hypertension.

本態性高血圧患者の行動時血圧に関するアルコールと $\alpha_1$ -アドレナリン受容体遮断薬の相互作用  
執筆者

Kawano Y, Abe H, Kojima S, Takishita S, Omae T

掲載誌 (番号又は発行年月日)

American Journal of Hypertension 13(3): 307-312 (2000)

### キーワード

$\alpha_1$ -アドレナリン受容体遮断薬、プラゾシン、高血圧、エタノール、ヒト

### 要旨

東洋人で、アルコール摂取による交感神経系の活性化によって、急性の血管抵抗性の減少や血圧の低下が生じる。 $\alpha_1$ 遮断薬のプラゾシンは高血圧の治療に広く用いられているが、アルコールと $\alpha_1$ 遮断薬との相互作用については検討されていない。本研究は、軽度の高血圧を有する日本人で、アルコールによる血圧変化に関するプラゾシンの効果について検討した。10名の高血圧患者(54±3歳)にプラゾシン(1 mg、1日3回)を1週間投与し、エタノールはプラゾシン投与前、投与後5-7日目の夕食時に1 ml/kgを摂取させた。対照群には同カロリーの飲料を摂取させた。血圧は移動式の血圧計(Colin ABPM-630)を用いて、24時間の間、30分毎に測定した。血液サンプルはアルコール摂取前と摂取2時間後に採取した。プラゾシン投与前、アルコール摂取によって血圧の低下が数時間持続し、24時間の平均値でも有意な低下が見出された。一方、アルコール摂取は心拍数、血漿ノルエピネフリンレベル、レニン活性を増加した。プラゾシンの投与で24時間の平均血圧は有意に減少した。アルコール摂取後2-4時間での低血圧はプラゾシン投与で有意に増強された。これらの結果は、 $\alpha_1$ 遮断薬による交感神経系の抑制はアルコールによる低血圧を亢進することを示している。アルコール摂取は $\alpha_1$ 遮断薬を投与されている高血圧の東洋人で著しい血圧低下をもたらす可能性があり、注意が必要であろう。